

棚橋賞受賞を祝い

岐阜県博物館協会監事 宮崎 惇

日本博物館協会では、機関誌『博物館研究』に掲載された報告文を対象に、選考委員会が推薦した著者に対し、毎年の大会の祈りに棚橋賞を授与している。



棚橋源太郎氏

この賞は岐阜県出身で我が国の博物館育の親、棚橋源太郎先生(1869～1961)の遺志による寄金を基に運用されている。我が国の博物館界の名誉ある賞で、先刻ご承知のところであろう。

昨年秋、岐阜県博物館勤務の小串泉氏の「岐阜県博物館“マイ・ミュージアム”——来たるべき世紀の新しい博物館を目指して——」に対し、この棚橋賞が授与された。

昭和38(1963)年、この賞が制定されてから33名の方々が受賞されている。岐阜県としては2人目である。博物館に関係するものとして、また岐阜県人として嬉しく思い、ここに改めて紹介する。

小串氏の報告文の内容は、『博物館研究』第31巻、第11号にゆずるとして、今後の博物館のあるべき姿を考える時、大変参考になることが多く、また、県民としても岐阜県博物館が何を考えて進んでいるのかがよく分かって好感がもてる。

私たち当協会としても、会員の業績を称え、また、発展を促すため、合わせて棚橋源太郎先生の顕彰を兼ねて「棚橋記念賞顕彰規定」なるものを昭和50(1975)年に設けている。

今までに名和正雄氏(1903～1972)と郷浩氏(1905～1987)の2名が受賞されている。共に本会の功労者本県博物館界への貢献者である。

当協会の棚橋記念賞は田端計栄氏よりの基金

の寄贈を基にして出発している。財政の関係で度々という訳にはいかないようであるがせめて何周年記念という時には授与してはいかなものであろう。「基金募集についてのお願い」の記事もここしばらくはお目にかかっているが、心配である。

近頃教育界において棚橋源太郎先生の業績を見直すような研究成果が大学院や学会で時々発表されている。これらの研究者の多くは岐阜県博物館図書資料室の「棚橋源太郎文庫」を尋ねて資料を調べているようである。岐阜県博物館の使命の一つとしても、わが国の博物館界の育の親、岐阜県出身者棚橋源太郎先生の資料収集と整備をお願いしたい。

岐阜県の生んだ博物館界の先導者、棚橋源太郎先生の顕彰記念物としては、関市百年公園の百寿の塔の前方に先生を太陽に見立てた顕彰日時計が設置されている。本巢郡北方町森の生家跡地に「棚橋源太郎先生生い立ちの地」という標柱くらいはほしいと思う。

来年は生誕130年、3年後は本協会設立35周年である。これらを記念して棚橋源太郎先生の胸像が岐阜県博物館界の賛同者によって然るべきところに設置できないものかと考える。

棚橋賞受賞を喜ぶ余り、つい話が大きくなってしまったが、わが岐阜県博物館界においても棚橋賞や同記念賞に値するような業績を求め、棚橋源太郎先生が示された博物館への情熱と遺志を受け継いでお互いに頑張るうてはありませんか。



宮崎 惇氏

教育普及活動の新たな展開を求めて

—魅力ある博物館づくりのために—

第45回全国博物館大会が11月5日・6日の二日間、広島市のアステールプラザで博物館関連等242施設から、360名が参加して、開催された。

開会式において、前・岐阜県博物館学芸部課長補佐兼マイ・ミュージアム係長小串 泉氏が、論文「岐阜県博物館『マイ・ミュージアム』—来るべき世紀の新しい博物館を目指して—」により、棚橋賞を授与された。

開会式後の全体会議で、文部省生涯学習局社会教育課中根孝司課長らから平成10年度予算概算要求事業、文化庁諸事業等について行政報告があった。

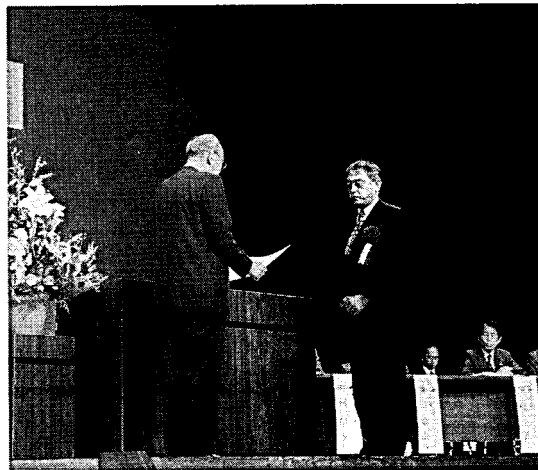
その主なものは①マルチメディアを活用した博物館機能の高度化・情報化の推進事業、②施設整備充実事業③科学系博物館ネットワーク活用推進事業④学芸員等の資質向上を図る事業等であった。

午後からは、大会メインテーマ「教育普及活動の新たな展開を求めて」に基づき茨城県自然博物館中川志郎館長の司会で、シンポジウムが開かれた。江ノ島水族館長堀 由紀子講師から、40年にわたる海洋教室への親子参加の事例、昨年から実施している野生種のメダカを教材として配布し、小・中学校、教室センター等地域の連携により学習支援の成果をあげている事例が紹介された。

東海大学自然史博物館柴 正博講師からは、インターネットを活用した教育普及活動のありかた、マルチメディア等博物館の情報化を推進する上で、種々の課題が提供された。

全体会において、マルチメディアの活用に議論が及び、司会の中川氏から特に指名を受け、高田 晃館長が岐阜県博物館におけるマルチメディアとしての映像情報特性の視点、映像ソフトとしてのハイパー・ハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」のコンセプト、今後の博物館における映像情報の蓄積と活用等について、フロアから発言をした。博物館における映像情報としてのマルチメディアの活用について関心が高まっていることを実感した。

6日の午前中は、二分科会に分かれて協議さ



(棚橋賞の榮譽を受ける小串氏)

れた。

マルチメディア分科会では、助言者の大塚和義氏(国立民俗博物館)らから、実物資料と映像情報の特性、コンピューターの機能と博物館への適応性について基調提案があった。

広島県立美術館から、会場のハイビジョン施設、設備を駆使して、マルチメディアの実例が紹介され、鹿児島県歴史資料センター黎明館からデータベースの構築事例が紹介された。

席上、岐阜県博物館から岐阜県域におけるマルチメディア環境と博物館の役割、マルチメディア情報センターとしての機能、県民参加型の博物館を目指すマイ・ミュージアム棟の施設・設備、今後の博物館における映像情報の期待等について資料説明をした。

分科会終了後も、栃木県、東京都等の参加者から質問があったり、見学の申し入れがあるなど、博物館におけるマルチメディアとしての映像情報の導入、コンピュータ技術の多面的な活用が今日的な課題であると痛感した。

児童生徒への学習支援分科会は、東京都江戸東京博物館小木新造館長の司会で、教育普及活動の新たな展開を、学校教育との連携に求め、児童生徒に対して博物館がその特性を生かして、いかに学習支援ができるかと、助言者の広島市現代美術館竹沢雄三氏らが、基調報告をした。

その後、フロアからの意見も交えて熱心に協議され、実のある分科会となり閉会した。

(岐阜県博物館 小林 秀臣)

第39回会員研修会報告

期日：平成9年11月27日(木) 13:20～16:20
場所：岐阜県博物館研修室 ハイビジョンホール
参加：25名

〈文化財の病害虫について〉

岐阜県博物館学芸員 説田 健一

文化財の害虫については、主として材質が植物質の場合と動物質の場合に分け考える必要があります。また、かびなど微生物による被害も多く、これらの予防・防除には次のようなことが考えられます。

- ・施設と設備の改善：窓の防虫網、収納時には殺虫・殺菌処理を忘れないこと。
- ・清掃と点検：被害の早期発見には不可欠。
- ・防虫剤：資料の変色、毒性などに注意必要。
- ・燻蒸：臭化メチル、沸化サルフリルなど多種の薬剤がありますが、殺菌力・毒性など差異も大きく状況に応じた選択が必要です。

〈博物館の情報提供〉

岐阜県博物館学芸員 浅井 正美

無形文化財や自然といった博物館で直接展示紹介できない内容を映像にまとめ保存することは、博物館の大きな役割として考えられます。現在当館では県内の祭・芸能、自然などの映像をインタラクティブに検索できる「ハイパーハイビジョン風土記」の制作(H10.3完成予定)をしています。大きな財産となるが、更に多くの情報の集約が要求されるでしょう。

また近年急速に広がったインターネットでの情報発信も望まれるものであり、当館でも7月にホームページを開設しました。館内ではOCNによりインターネットに接続、常時2台の利用が可能です。ページの作成はサポートの協力もあり、すべて館内で行っていますが、今後風土記の内容、館蔵資料の情報提供も考えています。全国的にも館蔵資料のインターネットでの紹介が計画されており、情報提供の方法としては益々要求が高まるでしょう。また、他館とのリンクなどを積極的に行う必要もあると考えます。

(岐阜県博物館 浅井正美)

第75回岐阜県博物館協会公開講座報告

「女性の関所通行」

期日：平成10年2月14日(土) 14:00～15:30
場所：岐阜市歴史博物館
講師：笈 真理子氏

当協会第75回公開講座は岐阜市歴史博物館土曜講座と共催で行われ、当日会場には110名を超える熱心な聴講者をお迎えしました。講師の笈氏は岐阜市歴史博物館学芸員として数々の展覧会を手がけるほか、館外での活躍も目覚ましく、今回の発表も長野県『榎川村誌』編纂にかかわるご研究をもとにされています。当地は中山道沿いに位置する山村で、江戸時代は、木曾代官山村氏の支配を受け同村贅川には番所が置かれていました。氏はその番所と現木曾福島町にあつた福島関所との関係、及び女性の立場から女性の旅と関所通行という視点をもって当地文書を引用しながら考察にあたつたものです。その中で関所に比べ番所での通行管理が緩やかであったこと、山村氏支配の木曾谷を宿村とする女性の手形発行手続きを通じ、支配地から領外に出る女性に対して入る女性より規制の厳しかったことなどを紹介されました。従来関所は、一口に江戸に関しての「入鉄砲に出女」取り締まりといわれているものの、これらの事例から一領域内でも「出女」の規制が強かったことが確かめられます。男性や子供が比較的自由な通行が可能であった点と対比して考えれば、女性の他出が領民の存続とつながるものと考えられていたことに起因するのではないかと推測を示されました。昨今盛んな女性史研究の上でも示唆的な発表でした。



(機関紙委員 岐阜市歴史博物館 大塚清史)

館・園紹介 No.102

郡上八幡民芸美術館

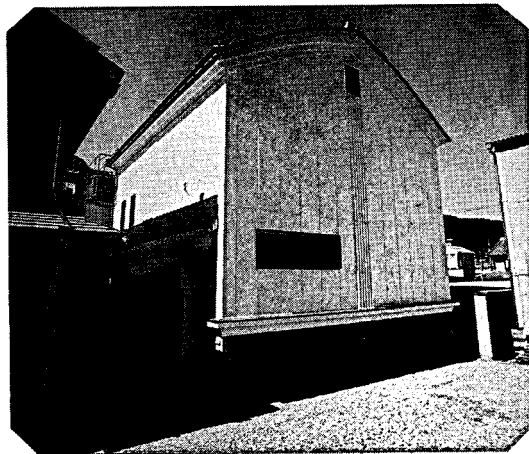
〒501-4222

郡上郡八幡町新栄町 1459-2

TEL 0575-65-2329

昭和46年(1971)7月郡上八幡民芸美術館と名命し、開館運営していましたが、昭和59年、雪深い時期の午後、ストーブからの出火で館諸共陳列品を焼失しました。開館して14年目の予期しない災難でした。形有る物は消滅することもあるとはいいいながら悲しみは何年も去り難い日々でした。

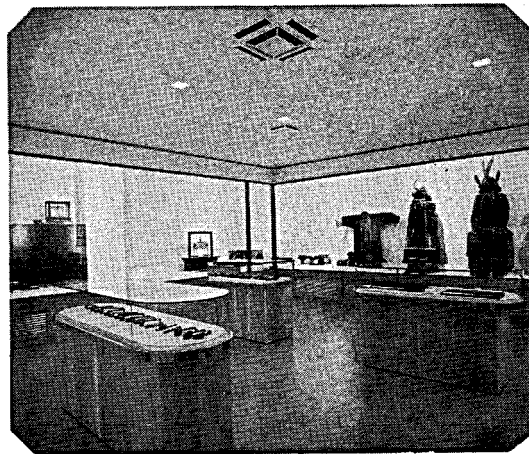
いろいろと悔いは残りますが、自分の人生はまだあります。幸いにして他の收藏庫に保管していた品々を今後保存管理する責務があると考え、災難から15年目の今、收藏庫兼展示館を建設し開館の運びとなりました。



郡上八幡民芸美術館の名称は、約30年程前に名付けた館です。現在の展示館は、收藏庫に陳列ケースを備えて展示している程度であり、公立または私立の規模の大きな美術館などは異なり、私の住宅裏の宅地に建てた收藏庫を利用した館です。

郡上八幡民芸美術館とは、大外れた名称かとも思い致しております。しかし、私が約40年余りの激しい仕事の傍ら美術品、古い民芸品に心を引かれ収集を致しました、いわば一小町民の余暇が生んだ民間の民芸美術館です。

しかし、この収集品の中には作者の先生、また所持しておられた方々との尊い出会いがあり、思い出多い一点一点を陳列しています。私自身には大切な宝物であり、深い思いを大切に保存したいと心がけています。



郡上が古代国家の行政上の一区画の郡として歴史の上で留めるようになったのは、斎衡二年(855)閏4月からです。また、地名「八幡」の起こりは郡上の三大伝説の一つに数えられる驚退治の伝説から生まれました。(1210)

永禄二年(1559)八幡山に初代城主、遠藤盛数が城を築いてから439年。現在も模擬城ではありますが、木造の天守閣が八幡山頂上にそびえています。西に小駄良川、東西に吉田川、南北に本流長良川、山紫水明にして社寺共に多く博物館、美術館、資料館等、四季折々観賞いただける所も多く、八幡町全体を広大な博物館とたとえ、私の館はその中の一点として認めていただければ幸いと存じます。

ご来館いただき、ご来館いただけますことを念じ、皆様との出会いを一層楽しみに致しお待ちしております。

【交通】東海北陸自動車道

各務原ICから郡上八幡IC約40分
郡上八幡ICより車で約3分

【開館時間】9:00~17:00

【休館日】毎週木曜日

【観覧料】大人350円

子供200円(小中学生)

20名以上団体割引あり

(郡上八幡民芸美術館長 松本五三)